

# 郷土長岡の歴史を伝える 「歴史文書館」が7月1日オープン

市の歴史に関する文書の保存や調査・研究の相談などを行う文書資料室が、7月1日に「れきしぶんじょかん歴史文書館」としてオープンします。市の歴史関連施設の再整備の一環で、旧互尊文庫内から旧サンライフ長岡へ移転します。

これまでの地域史研究と史料保存の経験を活かし、今後も市民の歴史学習と調査・研究を支援していきます。

## 1 「歴史文書館」オープン

- (1) 日 時 7月1日(土) 午後1時30分
- (2) その他 午後0時45分から開館式、  
午後2時から開館記念講演会  
を行います。



▲「歴史文書館」外観

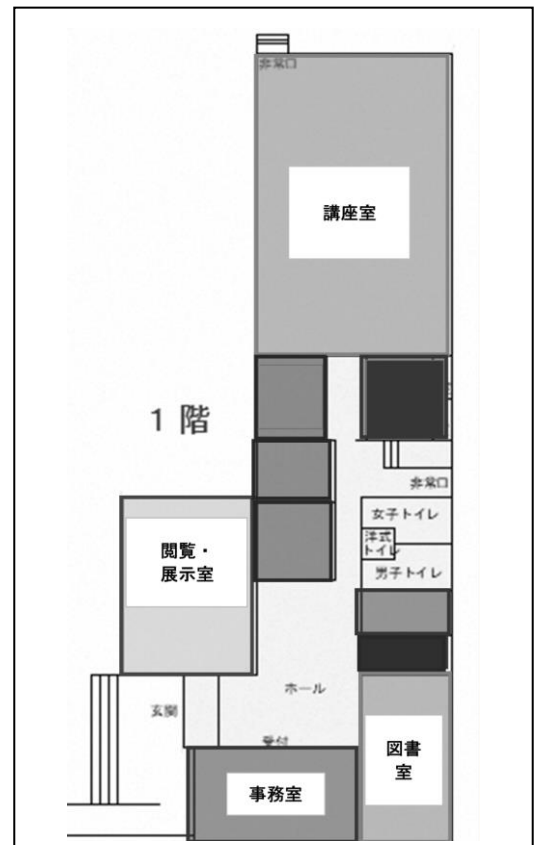
## 2 「歴史文書館」施設概要

- (1) 所在地 長倉西町458-7
- (2) 開館時間 午前9時～午後5時
- (3) 休館日 日・月曜日、祝日、年末年始
- (4) 諸室面積 計905㎡
  - ・1階：利用者エリア (427㎡)  
閲覧・展示室、講座室、図書室、事務室
  - ・2・3階：収蔵エリア (478㎡)  
書庫、作業室

※館内に約15万6千点の歴史文書（古文書、災害復興文庫など）を保存（他施設に約6万5千点を保存）し、講演会・展示会を開催します。



▲閲覧・展示室



▲1階：利用者エリアのレイアウト

### 3 「歴史文書館」開館記念事業

#### (1) 開館記念講演会（第1回 れきぶん講演会※）【新規事業】

- ・日時 7月1日（土）午後2時～3時30分
- ・演題 長岡はなぜ「長岡」なのかー地名に刻まれた歴史ー
- ・講師 田中 聡 さん（長岡工業高等専門学校教授）
- ・定員 40人（先着）

※ 郷土に関する歴史研究の成果や歴史文書の保存・活用の取り組みの紹介を目的に、市内の歴史関連施設、学校、コミュニティセンターとも連携して定期的に開催します（今年度は計3回を予定）。

#### (2) 常設展「虎三郎と弟・雄七郎」【新規事業】

- ・会期 7月1日（土）～29日（土）
- ・内容 新収蔵の小林虎三郎の晩年の日記を初公開  
中央図書館エントランスギャラリーでも関連展示を開催

#### (3) 連携パネル展「長岡空襲体験画パネル展」【新規事業】

- ・会期 7月1日（土）～8月26日（土）
- ・内容 開館20周年の長岡戦災資料館と連携して同館所蔵の体験画（複製）を展示

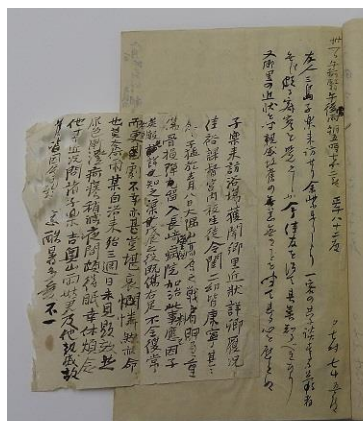
#### (4) 古文書解読講座「古文書のいろは」

- ・日時 7月12日（水）・26日（水）、8月9日（水）午後2時～3時30分
- ・講師 歴史文書館職員、中央図書館職員
- ・定員 40人（先着）

(5) その他 今年度下半期にも、企画展、長岡市史双書を読む会、古文書解読講座「古文書に見る長岡のすがた」などの開館記念事業を開催予定です。



▲昨年度の古文書解読講座



#### ◀小林虎三郎「伊香保日記」

明治10年（1877）7月31日の日記には、「友人」三島億二郎が湯治中の虎三郎を見舞いに訪れたことが記されています。郷里長岡の近況を語り合う二人の様子が伺えます。虎三郎は、翌月、8月24日に亡くなりました。

〔問い合わせ：教育部中央図書館 梅沢 電話0258-32-0658〕